

04 お客様の生産性向上のお手伝い

～ 設計図面を中心とした生産管理の基幹システム構築 ～



IT活用の背景と目的

株式会社エム・ティ・シィは、金型の設計から製造まで一貫した生産体制を整え、鍛造メーカーに供給する役割を担うため、平成元年に設立された。当社設立前、部品製造元である鍛造メーカーではプレス製の金型の需要は非常に高い状況にあった。しかし、多くの鍛造メーカーでは製造はもとより、設計をすることもできないほど金型の設計・製造は高い技術を必要としている。

現在は、ねじ及び自動車部品向けの工具の設計・製作ができる数少ない事業所として、多大な信頼を得、現在では、大手自動車メーカーのほかにも家電向けの部品関連も製造・納入するまでに成長した。

金型は製造順序が金型の種類毎に異なり、複雑でこの順序を間違えると、それまで行ってきた作業が帳消しになり一から作業をやり直さなければならない。そのような場合はお客様の製造作業に遅れをきたし、お客様の生産計画や損益にも影響を与えてしまい、信用問題にも繋がってしまう。また当社にとっても非常に無駄が発生し、経営にダメージを与えることになる。当時はパソコンが業務用に使われ始め、当社においても事務作業の効率アップのために、金型の図面を管理するための営業販売管理システムを構築した。当システムは製品をすべて図面番号で管理しており、この番号が生産指示の製品番号になるとともに、会計への取引番号になる。この手法は現在も引き継がれ、当社のシステムを支えるキー情報になっている。

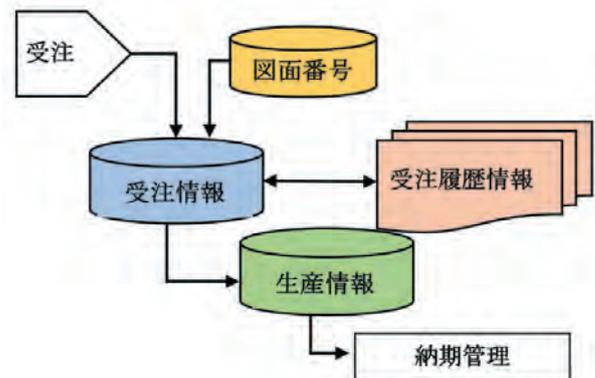


IT化の概要

金型における図面は非常に重要でこの管理が金型製造の肝になる。

受注時に図面番号を自動付番し、お客様の受注金型の番号とする。番号には過去に受注頂いた番号も紐づいており、新規に受注頂いた金型の図面作成時の流用図面とするよう、瞬時に取り出しが可能になっている。また、各図面には生産順序が情報として記載され、この生産順序と生産時間とで納期管理や、特急品のための工程入れ替え、最繁時の作業の山崩しのための製品入れ替えなどにも利用でき、非常に有効な管理方法になっている。当然製品ごとの納期管理に利用でき、お客様からの問い合わせなどにも瞬時に対応でき、また、社内の経営情報としても利用されている。

プロセス



株式会社 エム・ティ・シィ

本社所在地 〒507-0053 岐阜県多治見市若松町1丁目37番地の2
 T E L 0572-25-1987
 F A X 0572-25-1984
 創業年月 平成元年4月
 資本金 1000万円
 売上高 7億円
 従業員数 28名
 H P <http://www.mtc-inc.co.jp/>



IT 経営・IT 活用の効果

当社がITを活用するようになって30年ほどになるが、この間、常に2つの悩ましい問題が付きまとっていた。1つは会社の発展のための生産業務、経理業務などいわゆる会社経営になくてはならない基幹系の情報システムの構築。2つめはWINDOWS・OS95、98、XP、7へのレベルアップ時の業務システムの機能検証作業とその費用。

多くの中小企業同様、当社もまた人材不足という悩みを抱えている。そのため、IT人材など居るわけもなし、構築費用の検討・見積精査、システムの要件決定、システムの検証等、ITに関するすべてを社長自ら行ってきた。社長のノウハウ・スキルがすべてである。IT投資すべきか、工場設備に投資すべきか、社長の判断は、まるで山岳地帯の稜線を歩くようなもので、まさに中小企業経営者にとってバランスを要求される厳しいものである。

しかしながら、情報化社会を生き抜くにあたり、中小企業の製造業とはいえ、情報装備は生産設備と同様なくてはならないものであり、アウトプットされるデータは会社経営にとってまさしく有効な情報として活用していかなければならない。

当社の図面番号をもとにした生産システムは非常にコンパクトなシステムであり、金型の図面作成・図面更新など、当社の生産プロセスにとって有効に機能している。また、お客さまサービスにおいても迅速性、正確性で多大に貢献し、会社の利益に繋がっている。今後もこの考え方をシステムの維持・レベルアップの肝に据え、ITを活用した経営を推進していく予定である。



今後の課題

現在は「働き方改革」や「雇用問題」など多くの中小企業は課題を抱えている。しかし、これらの課題は現実的・速攻的に対応していかなければならない。当社のITについても、対応すべきことは多くあり、「働き方改革」・「雇用問題」と合わせ技で解決していかなければならない。特に今後は入力負荷軽減やOS変更時の運用変更回避、お客さまへの自由な情報開示など、従業員・お客さまサービスの更なる向上など、お客さまにとっても、当社にとってもメリットのあるシステムにしていかなければならない。取材：ITコーディネータ 土屋守



代表者からのメッセージ

代表取締役社長 本田 貴盛

平成元年4月1日、私たち、(株)エム・ティ・シは、“冷間鍛造技術の可能性を追求していきたい”という夢を抱き誕生し、以来、約30年に渡り、ヘッダーやフォーマーで冷間鍛造部品を製造している部品メーカー様のための金型を設計・製作することを通して、部品メーカー様を応援させていただいております。IT活用はそれらお客さまに対し、より良い品質や安心をご提供する強い経営手段であり、真剣に、「私たちのモノ創りのちからで世界の人々の笑顔をつくりたい！」と日夜努力を続けてまいりたいと考えております。

